

ハートランド平尾台株式会社

I 法人の概要（平成 30 年 4 月 1 日現在）

- 1 所在地 北九州市小倉南区平尾台一丁目 1 番 1 号
- 2 設立年月日 平成 8 年 4 月 1 日
- 3 代表者 代表取締役 柏木 康彦
- 4 資本金 364,800 千円
- 5 北九州市の出資金 88,200 千円（出資の割合 24.2%）
- 6 役員員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	9 人	0 人	1 人	8 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	8 人	0 人	0 人	8 人
職 員	6 人	0 人	0 人	6 人

II 平成 29 年度事業実績

1 事業の経過及び成果

(1) 経過

平成 29 年度は平尾台においては、7 月の豪雨や 8 月の猛暑により来場者数が激減するも、その他の月は天候も良く来場者数は順調であった。本年 1 月から 2 月にかけての積雪や異常低温の影響もあったが、年間来場者数は昨年度と比べ増となった。

(2) 成果

① 「平尾台自然の郷」の入園者数 280,751 人（平成 28 年度 270,309 人）

入園者数は、上期 199,462 人（前年度 182,064 人）、下半期 81,289 人（前年度 88,245 人）となった。上半期は増加、下半期は悪天候による減少、通年では昨年度を約 1 万人上回った。

② 「平尾台自然観察センター」の入館者数 39,578 人（平成 28 年度 41,858 人）

入館者数は、上期 25,751 人（前年度 26,126 人）、下半期 13,827 人（前年度 15,732 人）となった。上半期は前年度並み、下半期は前年度を大きく下回った。

③ 売上・利益

売上高は、216,985 千円、経常利益は、1,812 千円となった。法人税等控除後の当期純利益は、727,119 千円（平成 28 年度：2,123 千円）となった。

2 主な事業実施状況

(1) 「平尾台自然の郷」

ア PR活動

- ・新規キャンペーンとして、春と秋にクイズキャンペーンを実施した。
- ・ゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィークに焦点を当て、地域情報誌・Web・駅貼りポスター等によりイベント情報の提供を行った。
- ・市内外の保育園・幼稚園（約700施設）にダイレクトメールを発送し、市内の関連施設に対し、チラシを配布した。
- ・各メディアへ積極的なプレスリリースを実施した。
- ・インバウンド対応として、海外ブロガーやテレビ局の取材への対応や、海外クルーズ船の団体への短時間ガイドサービスを提供した。
- ・園外の各イベント（まつりみなみ、陶磁器フェスタ等）に出店し、平尾台自然の郷の施設紹介を実施した。

イ 各種事業の実施（新規分）

- ・青龍王（洞窟熟成焼酎）の在庫減少に伴い、麦焼酎に加えて、芋焼酎の新たな仕込みを行った（5月）。
- ・本田茂写真展を開催した（6～9月）。
- ・怪人ウォークラリー&ショーや高原音楽フェス（ご当地アイドル集合）を実施した（10月）。
- ・ご当地キャラ大運動会を開催した（11月）。
- ・幼児から小学生を対象としたストライダーイベントを新たに誘致した（11月）。

ウ 各種事業の実施（継続分）

- ・学校との連携イベントとして、小学校環境体験科授業（5～10月）、地元小学校と「平尾台ケイビング学習」（9月）、中学校野球部対抗駅伝大会（1月）を開催した。
- ・地域との協働イベントとして、平尾台観光祭（7月）、新米まつり（9月）、東谷フェスティバル（10月）、平尾台ふゆはなび（2月）、平尾台野焼き見学会（2月）を実施した。
- ・体験教室イベントとして、全日本素人そば打ち名人大会九州予選会（6月）、夏休み工作研究大作戦（工房体験、自然体験）（7・8月）を実施した。
- ・平尾台の特色を活かしたイベントとして、ガイドツアー（ケイビング、カルストジャングル冒険ツアー）や平尾台ボトムハンティング（3月）を実施した。
- ・スポーツイベントとして、トレイルランニングレース（4月）、ゾンビNightアスレチックマラソン（8月）、自転車障害物競走（シクロクロス）（12月）、クロスカントリー（3月）を実施した。
- ・音楽イベントとして、ブラスフェスティバル（4月）、高原ピクニックコンサート（7月）、フォルクローレコンサート（9月）を実施した。
- ・天体観測イベントとして、ペルセウス座流星群観賞会（8月）、双子座流星群観賞会（12月）、新春初日の出見学会（1月）を実施した。
- ・写真展イベントとして、平尾台四季の野草写真展（6月）、フォトクラブ花蓮写真展（9月）を実施した。
- ・駐車場を活用したイベントとして、カーミーティング（8月・11月）、林道ラリー（9月）を実施した。
- ・その他のイベントとして、キャラクターショー（5月）、ブルーベリー摘み取り（7・8月）、こども凧揚げ大会（8月）、芋ほり（10月）を実施した。

(2) 「福岡県平尾台自然観察センター」

- ・新規イベントとして、小学4年生以上を対象とした「平尾台ふしぎ発見隊」、冬季期間に「森の散策と落ち葉絵作り」、真冬の平尾台ハイキングを実施した。
- ・平尾台散策道整備、外来種駆除、草刈、野草調査などにより、平尾台の景観維持、登山・散策者の安全対策に取り組んだ。
- ・野外イベントとして、平尾台ガイド散歩、ケイビング、登山（九州自然歩道、貫山、塔ヶ峯）、観察会（野草、野鳥、コウモリ）などを実施した。
- ・屋内イベントとして、ミニ門松作り体験を、特別展示として、写真展（野草、きのこ、ネイチャーフォー、風景）やカルスト文化祭などを実施した。

Ⅲ 平成 29 年度決算

1 貸借対照表（総括表）

平成 30 年 3 月 31 日現在（単位：円）

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	480,729,554	流 動 負 債	17,900,575
現 金 預 金	458,793,906	買 掛 金	1,304,910
売 掛 金	13,594,300	未 払 金	2,748,828
商 品	7,827,141	未 払 法 人 税 等	1,746,800
原 材 料	437,105	未 払 費 用	6,458,583
貯 蔵 品	77,102	賞 与 引 当 金	1,855,998
		未 払 消 費 税	2,423,500
		預 り 金	1,361,956
固 定 資 産	55,521,977	負 債 の 部 合 計	17,900,575
（有形固定資産）	（55,230,777）	純資産の部	
建 物	1,089,510	科 目	金 額
構 築 物	686,205	資 本 金	364,800,000
車 両 運 搬 具	8	資 本 剰 余 金	73,837,619
器 具 備 品	1,738,796	その他資本剰余金	73,837,619
土 地	51,716,258	資本金及び資本準	73,837,619
（無形固定資産）	（291,200）	備金減少差益	
電 話 加 入 権	291,200	利 益 剰 余 金	79,713,337
		繰越利益剰余金	79,713,337
		株 主 資 本 合 計	518,350,956
		純 資 産 の 部 合 計	518,350,956
資 産 合 計	536,251,531	負 債 及 び 純 資 産 合 計	536,251,531

2 損益計算書（総括表）

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日（単位：円）

科 目		金 額	
経 常 損 益 の 部	(営業損益の部)		
	営業収益		216,985,377
	売上高	216,985,377	
	営業費用		215,680,528
	売上原価	186,797,700	
	販売費及び一般管理費	28,882,828	
	営業利益		1,304,849
	(営業外損益の部)		
	営業外収益		507,103
	受取利息	114,510	
その他の営業外収益	392,593		
営業外費用		0	
営業外利益		507,103	
経常利益		1,811,952	
益 の 部 損	特別損失		1
	固定資産除却損	1	
税引前当期純利益			1,811,951
法人税、住民税及び事業税			1,084,832
当期純利益			727,119

IV 平成 30 年度事業計画

1 「平尾台自然の郷」

① 指定管理者受託に向けた取組み

平成 31 年度からの指定管理者受託に向け、中長期的な事業計画の策定と魅力ある提案に取り組む。

② PR 活動

写真投稿サイトを使ったインターネット上でのイベント実施やコミュニティ FM ラジオの活用、新たに市内の小中学校（約 140 校）へのチラシ配布を実施する。

③ 雪の活用

雪遊び場エリアの設置について検討を行う。

④ 記念セレモニーの実施

平成 30 年度に来場者数が 500 万人を超える見込みであるため、記念セレモニーを実施する。

⑤ カルストあそび場の整備

平尾台の自然を活かした冒険コースについて、小学校 4 年生の環境体験科授業や一般来場者

に対して、1年を通じて自然体験イベントゾーンとして提供できるよう整備を行う。

⑥ ボランティアの募集

平尾台で活動を希望する各種ボランティア（ガイド・登り窯）を募集する。

⑦ 他の施設との合同イベントの開催

他の施設とのコラボレーションによる自然体験イベントや陶芸等の体験教室の充実を図る。

2 「平尾台自然観察センター」

① 新規集客対策の実施

従来のイベント等に加え、パワースポット巡りハイキング等、興味を引くネーミングによる新規イベントを実施し、ファミリー層・カップル層の更なる掘り起しを図る。

② 散策道の整備

平尾台の自然環境・景観を広く知っていただき、老若男女にも適した軽登山・散策を進めていくために、散策道の整備（道標の充実、草刈、安全対策など）を重点的に行い、魅力ある平尾台への誘客を図る。

③ 他施設との交流の推進

九州、山口にあるビジターセンターやNPO グリーンシティ福岡主催の九州諸施設との交流を深め、集客対策への企画・広報について、相互の連携体制を構築を図る。

④ 平尾台自然の郷との連携による事業の推進

平成29年度に実施した、平尾台ふしぎ発見隊（キッズレンジャー）の内容をより充実して実施する。

他のイベントや広報活動についても、効果的な事業推進を図る。

V 平成30年度予算

1 予定損益計算書

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日（単位：千円）

勘定科目	平成30年度予算
(営業損益の部)	
売上高	224,504
売上原価	194,345
一般管理費	29,364
営業利益	795
(営業外損益の部)	
営業外収益	470
受取利息	90
その他営業外利益	380
営業外費用	0
営業外利益	470
税引前当期利益	1,265
法人税・住民税及び事業税	850
当期利益	415

VI 役員名簿

平成30年7月1日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役	原 口 紳 一	社長
取締役	大 下 徳 裕	北九州市 企画調整局長
〃	加 茂 野 秀 一	北九州市 産業経済局長
〃	横 矢 順 二	北九州市 建設局長
〃	齊 藤 哲 郎	三菱マテリアル(株) 九州工場事務部長
〃	坪 井 治 夫	(株)ユアーズ 取締役管理本部長
〃	安 藤 俊 作	住友大阪セメント(株) 小倉事業所副所長
監査役	吉 野 浩 実	(株)西日本シティ銀行 北九州総本部長
〃	糸 永 卓 見	(株)太平設計 代表取締役社長